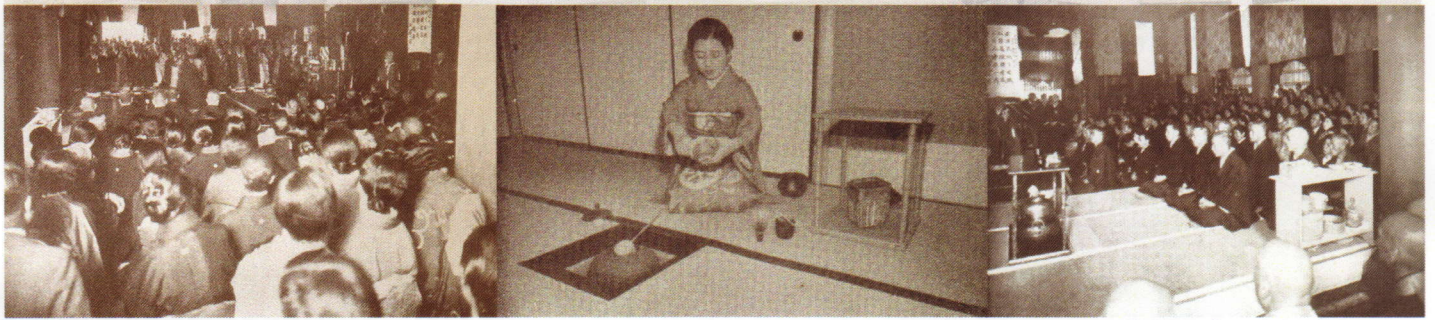




家元と大衆の時代



『利休居士三百五十年忌 餘香録』『新修茶道全集』他より

館蔵品により茶書の歴史を通覧するシリーズのパートⅧ後期では、昭和期・戦中戦後の茶湯の状況を考察致します。

昭和十年（1935）頃からの資本家茶人・近代数寄者の後退と、知識人数寄者の啓蒙により、新たに茶湯の担い手となったのは、家元に率いられた一般大衆でした。その殆どが経済的にも時間的にも余裕の出来た女性で、太平洋戦争が勃発する昭和15年に開かれた利休350年忌大茶会では、集まった多くの女性達と、空前のラジオ実況放送の様子が『餘香録』に記されています。この年にはまた、近代数寄者のコレクション公開の始まりとなった根津美術館が開館され、大衆にも美術鑑賞の世界が開かれました。

戦争に入ると、元来戦国の世から生まれた茶には、却って深い関心が払われます。物資欠乏等で困難はあったものの、流派内の各地域で結束が見られ、戦後の家元を中心に据えた組織作りの素地が生まれました。空襲警報の最中、哲学者・谷川徹三（1895～1989）が行った講演の記録は、終戦直後に『茶の美学』として出版され、戦後の茶湯研究の出発点となります。その紙質は悪く、茶論書であるにも拘わらず、敗戦により精神的支柱を失い、活字に飢えていた多くの人々に読まれました。

一方で、最後の近代数寄者・松永耳庵（1875～1971）と小林逸翁（1873～1957）は、茶の改革を唱え『茶道春秋』や『新茶道』等を著しています。戦中戦後の混乱期を経験し、茶湯が、二次大戦を知らずに世を去った近代数寄者から大衆の手に移る様を目の当たりにした彼らは、大衆を視野に入れ、近代的な合理主義をもってそのあり方を説きました。また、耳庵が保護した桑田忠親、堀口捨己等や、戦前より伸びてきた重森三玲、西堀一三、末宗廣等研究者の活躍は、昭和二十年代の夥しい茶書出版に見る事が出来ます。

このように、茶湯の被った戦争の影響はさほど大きくはなく、戦後の伝統文化への回帰の風潮の中で引き続き隆昌し、研究にも深化が見られました。高度成長期に入ると更に急成長し、昭和31年には、『茶道古典全集』全十二巻の刊行が始まり、茶湯研究に金字塔を打ち立てました。

本展では、現在でも手に入るロングセラーも含め、茶湯が大衆化した時期の茶書約七十点を展覧致します。戦中戦後を振り返る事によって茶湯の現在を発見し、今後のあり方をも模索する一助となる事を祈念致します。

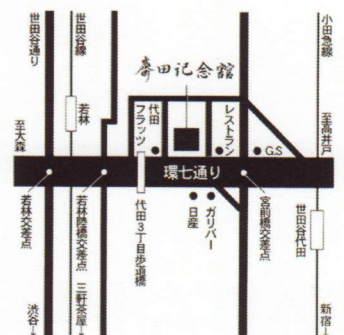
2006年9月1日（金）－12月7日（木）

- 開館時間 午前10時～午後1時 午後2時～午後4時30分（入館は4時まで）
- 休館日 土曜（但し、第4土曜・9/23、10/28、11/25は開館）、日曜、祝日
- 入場料 300円
- 会場 齋田記念館 1F 展示室

齋田記念館

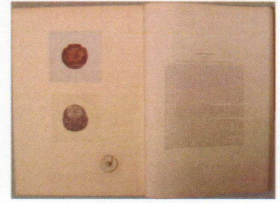
〒155-0033 東京都世田谷区代田3-23-35 TEL 03-3414-1006

小田急線・世田谷代田駅南口下車徒歩7分又は東急世田谷線・若林駅下車徒歩10分

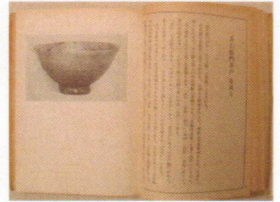


◇展示資料目録

1. 『青山荘清賞』	根津嘉一郎編	活字本・十冊の内一冊
2. 『茶道春秋』	松永耳庵著	活字本・二冊
3. 『松泉会記録』 参考展示	松泉会発行	活字本・三冊
4. 『新茶道』	小林一三著	活字本・一冊
5. 『大乘茶道記』	〃	活字本・一冊
6. 『茶と美』	柳宗悦著	活字本・一冊
7. 『茶と美』	〃	活字本・一冊
8. 『茶—私の見方—』	〃 他著	活字本・二冊
9. 『隨筆 茶』	〃	活字本・一冊
10. 『茶の改革』	〃 著	活字本・一冊
11. 『利休を凝視して』	末宗廣著	活字本・一冊
12. 『利休居士三百五十年忌 餘香録』	利休居士三百五十年忌協賛會編	活字本・一冊
13. 『茶道聖典千利休全集』	鈴木半茶編	活字本・一冊
14. 『千利休』	唐木順三著	活字本・一冊
15. 『南坊録の研究』	西堀一三著	活字本・一冊
16. 『古田織部正殿問書』	桂又三郎編	孔版本・四冊
17. 『古田織部』	桑田忠親著	活字本・一冊
18. 『註釋 古田織部茶会記』	鈴木半茶他編	孔版本・二冊
19. 『小堀遠州』	重森三玲著	活字本・一冊
20. 『不味流茶道手前』	富田八千穂著	活字本・三冊の内一冊
21. 『茶禪不味公』	高橋梅園著	活字本・一冊
22. 『茶道望月集拔萃』	風後庵又夢編	孔版本・一冊
23. 『習事十三箇條』	表千家十三代・即中齋著	活字本・一冊
24. 『茶道妙境』	武者小路千家九代・愈好齋著	活字本・一冊
25. 『無限の譜 淡々齋宗室匠追悼録』	淡交新社編集部編	活字本・一冊
26. 『茶を語る』	山田宗園著	活字本・一冊
27. 『豫楽院公茶杓單筒』	水谷川忠麿編	活字本・一冊
28. 『形物香合圖鑑・附冊形物香合考』	加藤義一郎編	活字本・五冊
29. 『寸法録』	廣瀬拙齋著	活字本・一冊
30. 『茶の扇』	中村清兄著	活字本・一冊
31. 『茶料理』	魚谷常吉著	活字本・一冊
32. 『茶道百話』	近重物安著	活字本・一冊
33. 『日日の茶味』	佐伯太著	活字本・一冊
34. 『竹窓茶話』	石黒大介著	活字本・一冊
35. 『茶心』	細谷喜一著	活字本・一冊
36. 『茶の湯の人々』	〃	活字本・一冊
37. 『神道茶の湯』	山田不忘庵著	活字本・一冊
38. 『近畿茶室行脚』	岡田孝男著	活字本・一冊
39. 『日本の茶席建築』	重森三玲著	活字本・一冊
40. 『茶庭入門』	〃	活字本・一冊
41. 『茶史點描』	川上帚木著	活字本・一冊
42. 『利休の茶室』	堀口捨己著	活字本・一冊
43. 『茶道精観』	金井紫雲著	活字本・十冊の内六冊
44. 『キリシタンと茶道』	西村貞著	活字本・一冊
45. 『庭と茶室』	〃	活字本・一冊
46. 『茶經評釋』	諸岡存著	活字本・二冊
47. 『茶經』	盛田嘉徳著	活字本・一冊
48. 『茶』	諸岡存著	活字本・一冊
49. 『日本茶道史』	西堀一三著	活字本・一冊
50. 『掛物と日本生活』	〃	活字本・一冊
51. 『茶のみち』	〃	活字本・一冊
52. 『簡素のすがた』	〃	活字本・一冊
53. 『茶花図譜』	〃	活字本・一冊
54. 『茶人系譜』	末宗廣編	活字本・一冊
55. 『風爐灰の仕様』	〃 著	活字本・一冊
56. 『茶道要覽』	〃 編	活字本・一冊
57. 『武將と茶道』	桑田忠親著	活字本・一冊
58. 『茶道辞典』	〃 編	活字本・一冊
59. 『茶の心 茶道名言集』	〃 著	活字本・一冊
60. 『茶道歳時記』	佐々木三味著	活字本・一冊
61. 『茶器とその扱い』	〃	活字本・一冊
62. 『茶道の精神』	竹内尉著	活字本・一冊
63. 『茶道史序考』	堀内他次郎著	活字本・一冊
64. 『東山文化の研究』	芳賀幸四郎著	活字本・一冊
65. 『茶道周邊』	肥後和男著	活字本・一冊
66. 『茶の美学』	谷川徹三著	活字本・一冊
67. 『茶の美学 図説茶道大系 第一巻』	〃 他編	活字本・一冊
68. 『茶の精神』	久松真一著	活字本・一冊
69. 『新修茶道全集』	矢部良作編	活字本・八冊
70. 『茶の古典十二選』	西田直二郎他編	活字本・一冊
71. 『茶道古典全集』	裏千家十四代・淡々齋總監修	活字本・十二冊



1. 『青山荘清賞』



6. 『茶と美』



37. 『神道茶の湯』



42. 『利休の茶室』



44. 『キリシタンと茶道』



63. 『茶道史序考』



66. 『茶の美学』

*資料の展示は必ずしも番号順ではありません。また都合により展示品が変更になる場合があります。